

《3月の番組ガイド》

鳥取市行政番組

「こんにちは、鳥取市です」【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介しします。



《今月の特集》

- 健康づくり推進員が紹介する「ふれあいウォーキングマップ」
- 元気です!!

用瀬町で流しびなを作り続ける「常磐会」
・弥生にぎわい拠点「パレットとっとり」

《放送時間》

- ① 6:30 ② 7:30 ③ 8:30 ④ 9:30 ⑤ 10:30
- ⑥ 11:30 ⑦ 12:30 ⑧ 13:30 ⑨ 17:30 ⑩ 18:30
- ⑪ 20:30 ⑫ 21:30 ⑬ 22:30

※『いなばアグリタイム』『とっとりウォーキング』も同様です。番組終了後は文字画面を放送しています。

※現在、平成18年4月のサービス開始に向けて、鳥取市全域のCATV網の整備が進められています。

農業番組

『いなばアグリタイム』【放送】毎週火・木

農作物の栽培技術情報や旬の話題、農業関連行事・イベントなどを紹介しします。

自主制作番組

『とっとりウォーキング』【放送】毎週水

地域の話題や住民のみなさんの活動、祭や伝統行事を紹介しします。

手話番組

『手話でコミュニケーション』【放送】毎週金・土

鳥取市の各種行事やお知らせを手話で紹介しします。また、手軽な手話講座「やさしい手話」をお送りしてしています。

鳥取市水道局広報番組

名実ともに「安心な水のみなもと千代川」をめざして【放送】毎月第4金・土

水道のしくみや水道局からのお知らせをご案内しします。

情報をお寄せください。

いなばぴよんぴよんネット ☎0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。

また、番組はホームページでも紹介してしています。

http://www.inabapyonpyon.net



先輩を見ながら技術を習得しします

て36年の山根春野さん(93歳)は「瞳を描くときは、何十年やっても緊張しします。この人形たちが災いを背負って流されるのだと思うと、顔を描きながら涙があふれてきます。だから、一つ一つが我が子のようにかわいし、人形は生きていくといつもそう思いながら、作っている」と目を細められます。作業はとても

人形作りを通して生まれる地域の連帯感

細かく根気がいらします。作り方は、人から教わるのではなく、若い人は先輩の作業を見よう見まねで覚えながら、そのうちだんだんと上達していくとのこと。作業中はみなさんが集中されていて、こちらがお話を伺うのも遠慮してしまいうぐらい、表情は真剣そのものでした。それでも3時のおやつ時間は、テレビドラマや夕食や世間話などに、おしゃべりの花が咲きます。

会長の中谷治信さん(85歳)は「みんなが伝統を絶やしてはいけないという使命感をもっていますし、後継者づくりも少しずつ進んでいます。また、この流しびなとさん俵作りを通して、地域の連帯感もほかの地域以上に強いと思います。作業の合間の世間話の中から、住んでいる人の健康状態もわかるほど。合併してまちが大きくなればなるほど、地域を大切にすることが重要なのではないかと思います」と、一言一言かみしめながら話されます。さらに、山根さんは、

「よそから来た知らない町へお嫁に来て、不安でいっぱいだったとき、人形を作ることによって、人の温かみを感じました。また、用瀬を訪れてくださるたくさんの方々との出会いは、私の宝物だし、一生の財産」と胸を張られます。今年の「もちがせ流しびな行事」は4月11日(月)に行われます。常磐会のみなさんの思いがたくさん詰まった流しびなを、1年間の幸せを祈って千代川へ流してみませんか。

シリーズ

元気です

36

伝統への使命感とひな人形一つ一つに心を通わせて



中谷治信さん Harunobu Nakatani

山根春野さん Haruno Yamane

ときわかい「常磐会」用瀬2区老人クラブ

江戸時代からの伝統を引き継いで

春の日差しが日ごとに柔らかなる旧暦の3月3日、用瀬町では、流しびな行事が行われます。これは、男女一対の紙でできた雛を、さん俵にのせ菱餅や桃の小枝を添えて、千代川に流すもので、1年間幸せに暮らせるよう、無病息災を願って行います。昭和60年には、「もちがせの雛送り」として鳥取県無形民俗文化財に指定されており、江戸時代

から引き継がれている伝統行事です。

このさん俵と流しびなを製作しているのが、今回ご紹介する「常磐会」のみなさんです。「常磐会」は用瀬2区のお年寄りが集まって作っている会で、流しびなの伝統を守ろうと昭和44年に発足。その中で、60〜90歳代の十数人の女性が2区公民館で作業をしています。作業は主に2月から3月にかけての週に2、3回。発足当初は、区内の全戸へ配布するもののみを作っていた

ましたが、現在では、用瀬町観光物産センターで販売しているお土産物など、年間を通じて約3000個を製作しています。

人形一つ一つが我が子のようにかわいい

流しびな作りは、さん俵とそれにのせる夫婦の組びなを作る人に分かれて作業を行います。さん俵と言うと、少し聞き慣れないかもしれませんが、米俵の両端にする円いふたのこと。使用するわらは長

くて少し青みがかったものを厳選。作業はわらを切りそろえることから始まります。こうして束ねたわらを放射状に広げ、円い板をのせて足で押さえ少しずつ編み込んでいきます。こうしてできたさん俵は、まさに職人技と言えるきれいな円形。

ひなは、頭の部分を紙粘土で、衣装は紙で作りますが、すべてが手作りで経験が必要なかでも、顔の表情を描くのがとても難しく、この会の最高齢で、流しびなを作り続け

